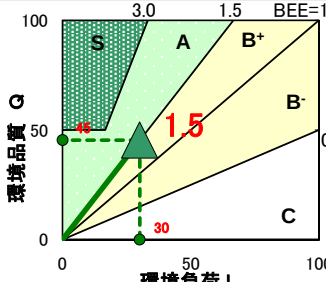
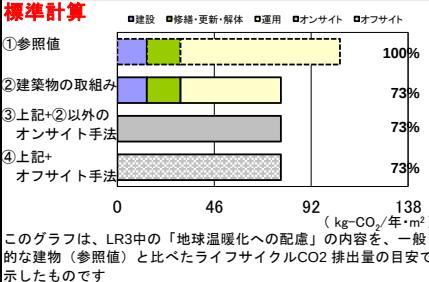
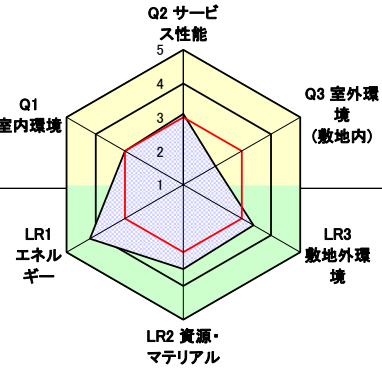


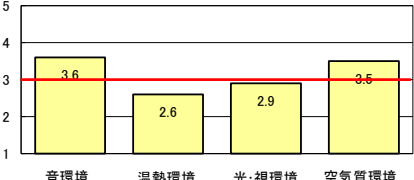
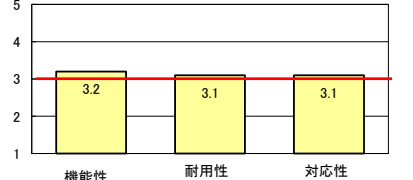
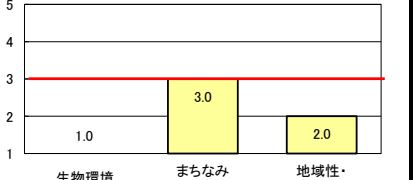
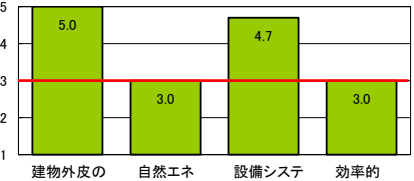
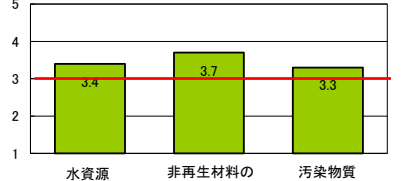
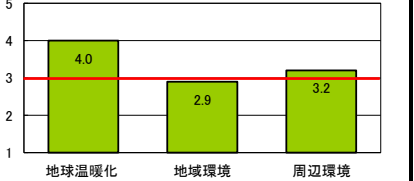
CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	株式会社八神製作所 名古屋営業部棟(仮称)新築工事	階数		
建設地	愛知県名古屋市中区千代田三丁目804番	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	事務所	評価の段階		
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日		
敷地面積	405 m ²	作成者		
建築面積	316 m ²	確認日		
延床面積	2,246 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1 
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4 

3 設計上の配慮事項		
総合		
道路面からの圧迫感に配慮し、透明感を強調する為、縦型のカーテンウォールを採用した。 また、周囲との景観の調和やまちなみへの潤いを生み出すためにエントランス部に緑地を配置した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・シックハウス対策として使用する材料は全てF★★★★とした。	・階高を十分にすることで機能性の自由度を高めた。 ・内外装材に防汚性の高い仕上げ材を使用し維持管理に配慮した。	・敷地内に緑地スペースを計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・外部に面する部分は断熱材を設置し、高効率の設備機器を選定した。	・躯体と仕上材を容易に分別できる設計仕様とし部材の再利用に努めた。 ・自動水栓や節水型の衛生器具を採用し節水に努めた。	・屋外照明は、光害の影響がでないよう周辺環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

株式会社八神製作所 名古屋営業部棟(仮称)新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。